

2011 年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	山科 満		
NAME	YAMASHINA Mitsuru.		

1. 研究課題

(和文) ホスピスにおける傾聴ボランティアの役割および成長過程

(英文) Roles and developmental process of the listening volunteers in a hospice.

2. 研究期間

2年間 (2011年4月～2013年3月)

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

初期の計画

背景：ホスピスへの需要が高まりつつある中、その運用方法や提供するサービスは多様であることが求められる。目的：非専門家による「傾聴ボランティア」が活躍するホスピスにおいて、ボランティアの果たす役割と今後の可能性について検討する。研究計画：病院の協力のもと、計 8 名ないし 10 名の「傾聴ボランティア」スタッフを対象に面接調査を行う。ボラインティ活動の中で出会うさまざまな困難をどのように乗り越えたか、といったことを中心に半構造化面接を行って逐語録を作成し、修正版グランデッドセオリーアプローチにより解析する。これと平行して、研究者自身が病院での傾聴ボランティア活動に参加する。

研究内容の変更

研究開始時期に東日本大震災が発生したため、研究者自身のボランティア活動の場を急遽被災地に変更し、震災発生直後の 3 月 20 日から岩手県野田村に赴いた。当初は精神科医として現地でのさまざまな要請に応えつつ、それと平行して家族や家屋を喪失した被災者への傾聴活動を 2 年間にわたり継続することとした。持続的に関与した被災者は 15 名であった。今日まで聞き取りを続けているが、特に家族を喪失した被災者の場合、喪失体験が未だ癒える気配が無く、変化プロセスを記述するには時期尚早であると判断された。

ボランティア活動の一部は、下記のごとく誌上にて発表した。

(英文)

In the suffering area of East-Japan great earthquake, I acted as a volunteer psychiatrist. 15 persons who had lost houses and /or family members were followed during tow years. Those who had lost the family members did not progress the mourning work and they needed continuous help. Tow articles were published supported by this subvention.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）

山科満：ボランティア医が見た岩手県北沿岸地域における精神保健の絆 ―野田村での活動を通して、

精神医療（査読なし）、64号、121-131、2011年1月

長岡重之、山科満、大塚耕太郎：東日本大震災が精神障害者に与えた影響の一端 ―発生直後20日間の

入院動向と緊急入院事例の検討から―。精神科治療学（査読あり）、27巻9号、1245-1250、

2011年9月

【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）

特になし

【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）

特になし

【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）